

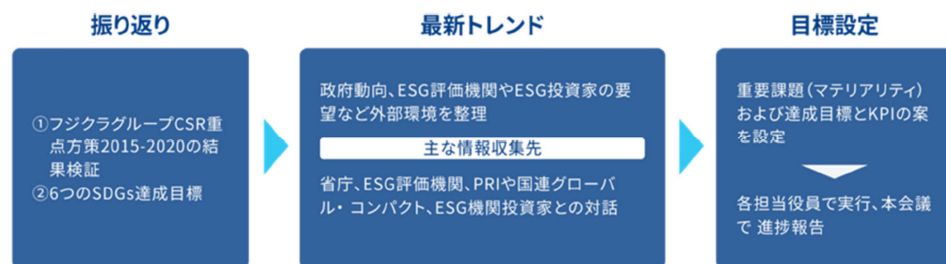
サステナビリティ目標 2025

以下は、2025 年度までの取り組みとして位置づけていたサステナビリティ目標 2025 の考え方および策定プロセスです。

これまで、環境・社会マテリアリティとして 5 か年の CSR 重点方策 2020（2015～2020 年度）を定め、各方策を関係部門と連携しながら推進してきました。しかし、目標設定時より社会の変化が早く、抜本的な見直しが必要となりました。そこで 2021 年度から始まる新たな 5 か年のサステナビリティ目標 2025（2021～2025 年度）では、環境・社会マテリアリティを踏まえつつ、財務マテリアリティの視点も加味した目標設定としました。また、フジクラグループが定める長期ビジョン（2030 年ビジョンやフジクラグループ環境長期ビジョン 2050）と連動させることで、より将来を見据えた目標にしました。

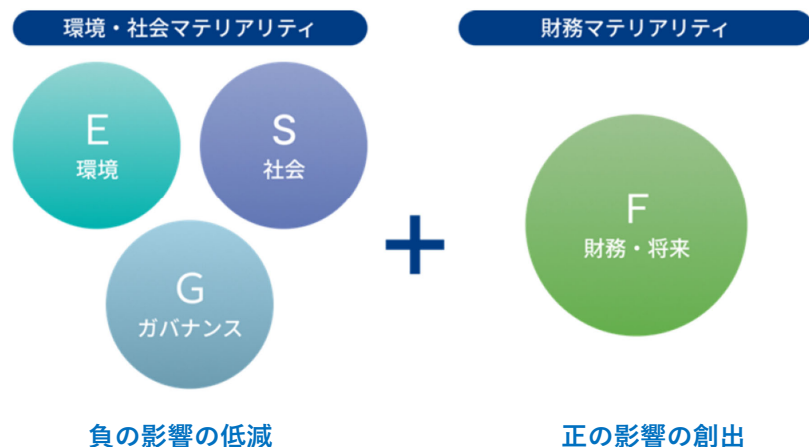
サステナビリティ目標 2025 は、サステナビリティ推進委員会（旧サステナビリティ戦略会議）で審議・承認を得ました。

サステナビリティ目標の策定プロセス



ダブルマテリアリティを導入

サステナビリティ目標 2025 の設定にあたり、CSR 重点方策 2020 の結果を検証するとともに、最新トレンドを踏まえ新たに盛り込むべき観点を整理しました。最新トレンドの把握では、国内外の社会課題や国際的なガイドライン、ESG 評価機関の評価項目やステークホルダーからの声を参考にしました。

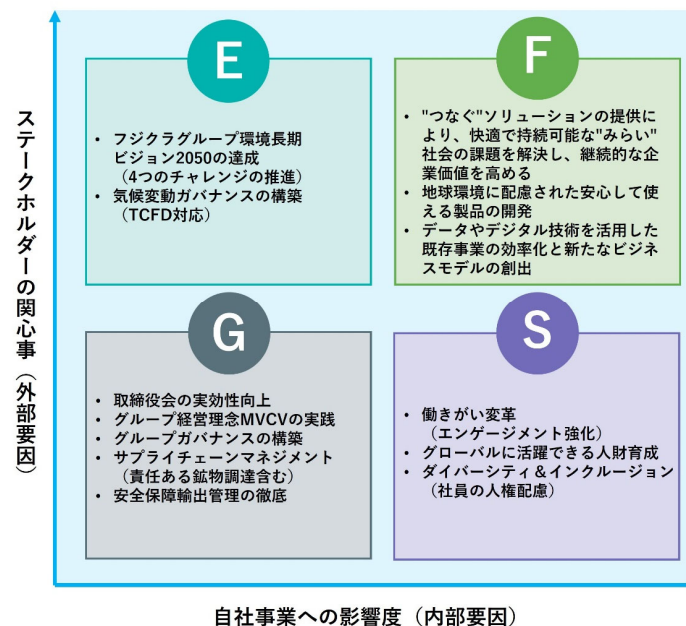


マテリアリティマップの策定

フジクラグループは、「フジクラグループ CSR 基本方針」と「4 つの重点課題」をベースに、サステナビリティ目標 2025 のテーマを定めるためにマテリアリティマップを策定しました。これは、ステークホルダーインクルーシブを念頭に「マテリアリティマップ分析」を行い、「ステークホルダーの関心事」と「フジクラ事業への影響度」の 2 つの視点から評価・検証を行いました。

その結果、F（財務・将来）で 3 項目、E（環境）で 5 項目、S（社会）で 3 項目、G（ガバナンス）で 5 項目設定し、2025 年度の目標達成に向けて、毎年目標と実績を評価しています。目標に対する進捗は毎年統合報告書や ESG ウェブサイトで公開します。

マテリアリティマップ（重要度の高いものみ抜粋）



サステナビリティ推進委員会（旧サステナビリティ戦略会議）での審議

サステナビリティ目標 2025 では ESG の観点到 F（財務・将来）を加え、環境・社会が企業業績に与える影響を新たに盛り込むとともに、2030 年ビジョンなどフジクラの長期ビジョンの達成を考慮しました。

サステナビリティ目標 2025 の全体像



サステナビリティ目標2025 目標と結果



最終更新日：2026年9月30日

テーマ	重点方針	2025年度および将来の達成目標			2025年度の主な実績
F II 財 務 将 来	“つなぐ”ソリューションの提供により、快適で持続可能な“みらい”社会の課題を解決し、継続的な企業価値を高める	2030年ビジョンで想定する4つの分野から新規事業を探索	①既存事業におけるコア技術の進化と発展	・コア技術を発展させて、社会的価値の高い製品・サービスの開発	・マルチコアファイバでは、データセンター向けシステムの開発および顧客向け評価を実施 ・ファイバレーザでは、高性能化に向けた試作・評価を実施
	地球環境に配慮された安心して使える製品の開発	2050年に、フジクラの全製品を環境配慮型製品（グリーン関連製品）に置き換える	②新たな技術や事業分野の探索	・オープンイノベーションも考慮 ・モノ売りに加え、コト売りによる事業の探索	・フュージョンエネルギー（核融合発電）の早期実用化に向けて、重要パーツである高温超電導線材の生産能力拡大を推進
		2030年に、グリーン製品創出活動を全グループ会社に展開する		・環境配慮型製品の拡充を推進し、新たにグリーンPLUS製品2件、グリーンマインド製品20件、グリーン製品2件を登録 ・地球環境委員会の分科会において、製品の企画段階から環境配慮を行う仕組みの制度化に向けた議論を進め、具体的な方策を決定 ・展示会での展示品にグリーン関連ロゴを付与し、環境配慮型製品の認知向上を推進	
	データやデジタル技術を活用した既存事業の効率化と新たなビジネスモデルの創出	製造現場でのDX（スマートファクトリー化、AI活用） 営業部門でのDX（デジタルマーケティング）			・既存AI検査の新規モデルへの展開およびSWR®用AI検査システムの開発・導入を進めるとともに、製造・業務分野へのAI活用拡大や、生成AIを活用したAI学習手法の検討に取り組む
E II 環 境	【チャレンジ1】工場CO ₂ 排出総量「2050年ゼロチャレンジ」	CO ₂ 排出量の削減	対象範囲：SBT認定バウンダリ ※America Fujikura Ltd. (AFL) グループ除くフジクラおよび国内外グループ企業	・2025年度目標：2020年度比16.5%以上削減（289千トン／年以下） ・2030年度目標：2020年度比33%以上削減 ・2050年目標：工場からのCO ₂ 排出ゼロ	・2025年度目標16.5%以上削減（2020年度比）に対して37.4%削減
		生産効率の向上（省エネの推進）	対象範囲：フジクラグループ（国内外）	・エネルギー使用量:2025年度において、2020年度比5%以上改善	・2025年度目標5%以上改善（2020年度比）に対して6%削減となり目標を達成
		製品物流効率の向上	対象範囲：フジクラグループ（国内）	・製品物流のエネルギー原単位:2025年度において、2020年度比5%以上改善	・2025年度原単位は、前年度比2%減の58.7にて目標達成
	【チャレンジ2】工場の水使用の最小化と排水管	水リスク低減への貢献	・水の使用量原単位:2025年度において2020年度比5%以上改善する		・2025年度目標5%改善（2020年度比）に対して4.5%改善で未達（国内） 生産量増加による水の使用量の増加が原因
	【チャレンジ3】工場の人と自然の共生	事業所内自然を有効活用し、生物多様性の拡大に貢献する			・国内外グループ会社を対象に環境トラブル情報の共有を実施 ・国内外グループ会社を対象に環境管理状況および環境関連法令の順守状況に関する監査を実施
		地域の自然環境保全活動を推進する			
	【チャレンジ4】資源の有効活用と資源循環	投入資源を減らし、資源の効率的な利用を推進する	対象範囲：フジクラグループ（国内外）		・リサイクル品使用量：目標10,000トンに対して10,558トンで達成（国内）
		事業活動に伴う廃棄物排出量の削減	対象範囲：フジクラグループ（国内）	・廃棄物排出量原単位:2025年度において、2020年度比5%以上改善する	・2025年度目標5%改善（2020年度比）に対して11.1%改善で達成（国内）
廃棄物ゼロエミッションの達成		対象範囲：フジクラグループ（国内）		・埋立・単焼焼却量ゼロ目標に対して埋立率0.7%で未達、埋立量は前年度より2.5%減少（国内） 特殊製品の部材において埋立処理に頼らざるを得ないことが原因	
気候変動ガバナンスの構築（TCFD対応）	気候変動リスクと機会の把握 戦略および財務への影響の把握			・SSBJ対応に向け定量的財務インパクトの把握について準備中	
S II 社 会	働きがい変革（エンゲージメント強化）	社員一人ひとりが自己実現を通じて人として成長し、公私共に充実している		・社員の自発的貢献意欲の向上 ・時間、場所にとらわれない働き方の環境整備 ・健康経営によるモチベーション向上 ・労働生産性の向上	・テレワーク利用率：37.1%（フジクラ） ・健康経営優良法人2026（大規模法人部門）認定
	グローバルに活躍できる人財育成	フジクラグループ全社員がグローバルな視点で活躍をしている		・会社の成長と社員の成長がシンクロする組織風土 ・イノベーション創出をリードする人財の育成、発掘、獲得 ・自律的なキャリア構築の支援、成長機会の提供 ・社員同士が互いを認め・高め合う組織（個の尊重・信頼）	・総合職に占める海外勤務割合（経験者数）：18.1%（フジクラ） ・自発的な研修受講：試験受験延べ人数（TOEIC等の試験受験、オンライン英会話／動画学習サービス・社外講習・通信教育の受講など）：1,903名（フジクラ）※2024年度は1,534名 ・オンライン英語学習サービスや動画学習サービスの活用を推進
	ダイバーシティ＆インクルージョン（社員の人権配慮）	多様な背景・考え方を持つ人財が活躍している		・多様な個人が活躍できる環境 ・国籍・人種・性別・宗教・年齢等にとらわれないキャリア機会の提供 ・障がい者および性的マイノリティへの配慮 目標（2025年度まで） ・女性管理職比率：5.6%以上（フジクラ） ・女性係長比率：16.0%以上（フジクラ）	・女性管理職比率（フジクラ）：4.8% ・女性係長級比率（フジクラ）：18.3% ・障がい者雇用率（国内）：2.52%
G II ガ バ ナ ン ス	取締役会の実効性向上	・取締役会の実効性向上および監督機能強化 ・経営の透明性・公正性を高め、迅速な意思決定を図ること ・取締役会の多様性の確保 ・後継者計画の策定・運用の監督 ・育成計画の適切な監督			・第三者機関による取締役会実効性評価を実施 ・当該結果を踏まえ、取締役会実効性向上のため、以下の取組を実施 - 取締役会の役割を再定義し、アジェンダへ反映 - 取締役会構成の見直し、社外取締役の役割を明確化 - 中長期的な経営課題の議論、非財務テーマの議論の拡充 - 指名諮問委員会、報酬諮問委員会の審議範囲の拡充 ・経営人財プールの運用：経営人財育成プログラム受講者数139名（フジクラ） ※2020年度以降に本プログラムを受講した人数の累計 ・2026年度取締役会構成に向け、スキルマトリックスに沿った社外取締役候補者を選任 ・指名諮問委員会にてCEOサクセッションおよび主要ポストの後継者計画について確認・議論を実施
	グループ経営理念MVCVの実践	・新行動基準の実践によるグループ経営理念実現			・2025年度も社員全員参加のMVCV実践に向けた、職場伝道師育成、階層別研修を実施
	グループガバナンスの構築	戦略的経営に資するガバナンス体制の構築 投資管理の強化			・2023年度に定めた「グループガバナンス基本方針」を主要グループ会社に展開
	サプライチェーンマネジメント（責任ある鉱物調達含む）	社会課題（児童労働や強制労働など）に配慮したサプライチェーンマネジメントの確立 責任ある鉱物調達の体制確立（3TGを中心にコバルト、マイカなどのデューデリジェンスシステム） NGOなど外部からの指摘ゼロ（または指摘があった際の早期の是正） 他社との連携（他社の取り組みを学び自社の取り組みに活かす）			・サプライヤーへのサプライチェーンアンケートを108社に実施し、お取引先にフィードバック ・パートナーズミーティングを東京・上海で実施、計154社が参加
	安全保障輸出管理の徹底	輸出管理上のコンプライアンス遵守体制の強化		・輸出管理監査の実効性の向上	・重大な法令違反なし ・国内外のグループ会社を含めた輸出管理監査を実施